

協会創立50周年記念

小野市におけるサッカーの普及と
スポーツマンとしての健全な育成を求めて

50年の歩み



Ono
Football
Association

SINCE 1965

子供たちの未来にむかって



小野市サッカー協会

〒675-1372 兵庫県小野市本町600 バスコクラフトハウス内
TEL/FAX 0794-60-4911
E-mail sbddomain2@maia.eonet.ne.jp



協会創立50周年を迎えて

小野市サッカー協会 会長 石田 健郎
(5代目 1996～現在)

小野市サッカー協会の創立50周年を迎え、感慨深く協会活動してきたことが思い出されます。私は生来の虚弱体質で、中学生までは特に目立った運動もせず、高校に入ってからサッカー部に入部し、卒業するまで厳しい部活動に耐えたことにより自信ができ、心身ともに強くなりました。本協会が設立された昭和40年に司法・行政事務所を開設し現在に至っていますが、これもサッカーで得た自信で、その恩返しの気持ちで、小野高校、小野工業高校のOBや市内企業にも声をかけて、協会設立、社会人チーム等の結成に邁進したことが思い出されます。

小野市におけるサッカーの歴史は古く、1902年(明治35年)に県立小野中等学校(現県立小野高校)に蹴球部があった記録が残っています。ただ、サッカー設備、用具、指導者等の関係もあって、普及の著しかった野球に比べると50年前は言わばマイナーな競技でありました。

しかし、1964年(昭和39年)の東京オリンピックで、開催国としてベスト8に入り、サッカー競技が見直される中で、サッカーの普及と技術の向上をめざし、まずは社会人チームの組織化から始めるために1965年(昭和40年)に協会を創設しました。それ以降、1968年(昭和44年)のオリンピックメキシコ大会において、釜本、杉山、小城、横山等の選手の活躍で開催国メキシコを3位決定戦で破り、銅メダルを獲得し、サッカーブームの到来を迎えました。

今では、Jリーグ、なでしこリーグの発足で、日本チームの活躍がめざましく、まだまだ日本のサッカーはヨーロッパ、南米などのレベルには至っていませんがメジャーなスポーツとして、また、フットサル(5人制)の導入によって幼児から高齢者まで親しみやすいスポーツとなっています。

本協会の50年の歩みを見ますと、高校生の活動から社会人、中学校、スポーツ少年団へとチームづくりが進み、現在市内登録チーム数は、1種(社会人)7チーム、2種(高校)2チーム、3種(中学生)5チーム、4種(小学生)6チームの20チーム(約900人)があり、また、少子化に伴い、子供の育成支援としてキッズ年代のスポーツの普及にも努めているところであります。

これまで協会として50年活動して来られましたのも、地元小野市、小野市教育委員会をはじめ、小野市スポーツ少年団、小野加東ロータリークラブ、小野ライオンズクラブ等市内関係協力団体、読売新聞社、JA兵庫みらい、地元企業、商店等のご支援をいただいた賜と深く感謝申し上げます。

これからも小野市サッカー協会として、子供たちの羽ばたく未来にむけて、サッカーの普及と技術の向上に努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■歴代会長(主な功績)



初代会長 依藤 邦司
(1965年～1969年)

市内では歴史あるサッカー競技(当時は蹴球)ではあるが、古くは高校のみで行われ、東京オリンピックでの日本の活躍で、協会創設、社会人チーム「小野クラブ」をはじめ、中学校での創部並びに大池総合公園の寄付による夜間照明の設置にも尽力された。



三代目会長 大野 文夫
(1976年～1985年)

協会主催での「小野市ミニサッカー選手権大会」(読売新聞社後援)の開催、小野ロータリークラブ杯争奪新春少年サッカー大会、中学校を対象に小野三木(神戸屋杯)サッカーフェスティバル各種大会の開催、「親子サッカー教室」開講など市内におけるサッカーの普及に尽力された。



二代目会長 松井 一郎
(1970年～1975年)

社会人チーム「小野ダックス」の創設、小野市における各地区のスポーツ少年団サッカー部の創設、さらには市民へのサッカーの普及として、「市民ミニサッカー大会」(5人制)を全国に先駆けての開催に尽力された。



四代目会長 坂口 尚
(1986年～1995年)

老いても現役としてサッカーに親しまれ、その人脈を元に本協会役員チームと神戸フットボールクラブ(シニア)等他地域との交流を図ると共に、市内社会人チーム、少女チームの結成にも尽力され、協会としての1種から5種までの体系的な組織化に尽力された。

■50年の主な活動

1. 創立当初の活動

国内普及があまり進まなかった日本サッカーも東京オリンピックでベスト8に入り、次のメキシコオリンピックでは開催国メキシコを破り、銅メダルを獲得し、サッカーブームが訪れる。本協会も東京オリンピックの翌年に設立し、当初は、社会人チーム（小野クラブ、小野ダックス、神菱電機など）の組織化と神戸税関河月氏を通じての神戸K.R.A.Cとの交流戦が主に行われた。また、小野市では古くから高校を中心に行われていた蹴球（サッカー）も中学校サッカー部、スポーツ少年団サッカー部へとサッカーの普及が図られた。特に石田健郎会長、藤井幸雄先生、多鹿善文氏などの普及活動の功績が大きい。

また、坂口尚四代会長（小野市民病院院長）時には、神戸フットボールクラブとの関係が深く、40歳代以下は白パンツ、50歳代はオレンジ、60代は赤、70代は銀、80代以上になると金パンツのルールで、本協会役員チームでの交流戦活動を行い、小野産米などを贈り、他地域との交流を盛り上げた。



神戸FC女子との交流戦



ユニバー競技場での交流戦

2. 協会主催大会開催活動

(1) 小野市フットサル選手権大会の開催

小野市フットサル選手権大会は、昭和48年に日本サッカー協会で紹介された「ミニサッカー」のルールをいち早く取り入れ、翌年に「市民ミニサッカー大会」として始めたのが最初で、3回開催された後、協会主催として昭和52年に「第1回小野市ミニサッカー選手権大会」（46チーム参加）が行われた。本大会の開催にあたっては、読売新聞記者の内海隆氏の「小野市内のスポーツ大会は、いつ始まり、いつ終わったか分からない大会ばかり」という厳しい指摘の中で、ご尽力を賜り、読売新聞社の後援を得て開催できる運びとなった。

5人制フットサルの普及で、本大会も第25回を機に「小野市フットサル選手権大会」と名称を改め、来年には40回を数える。参加チーム、参加人数では八王子市の「新春フットサル大会」には規模では劣るものの、現在では120チーム、1,100人の参加で対人口参加率では日本一の大会と言え、協会運営の中心的な事業となっている。また、本大会においては「サッカーカーニバル」、「キッズサッカーフェスティバル」を同時開催し、幼児から高齢者まで参加する大会となっている。



開会式（選手宣誓）



大会冊子



国際色豊かな大会

(2) 4種大会（小学生）の開催

スポーツ少年団サッカー部の市内地区創設に伴って、地域的な大会がないことから、小野ロータリークラブの支援を受け、小野市、加東郡（現加東市）の少年サッカーチームを対象に昭和57年に「第1回小野ロータリークラブ杯争奪新春少年サッカー大会」を開催。その後、(株)マツヤスポーツの協力、支援で平成7年には「第1回マツヤスポーツ杯少年サッカー大会」を開催した。また、小野市スポーツ少年団主催による「小野市ライオンズクラブ杯争奪少年サッカー大会」が昭和62年から、さらに「小野市農協杯サッカー大会」が平成3年から開催され、現在も「JA兵庫みらい杯」として継続実施している。

しかし、昭和48年の北播サッカー協会の創設により、4種の各種大会も北播、県、全国へのつながる大会及びリーグ戦が中心となってきており、市内各少年サッカーチームも他地域のサッカーチームとの交流試合、交流大会も多くなり、活動範囲が広域化してきている。



ロータリー杯



マツヤ杯

(3) 3種大会（中学生）の開催

協会が創設される以前には中学校にサッカー部はなく、東播大会は他の運動部から選手を選抜し出場されていた。昭和42年の小野中学校サッカー部の創部に始まり、市内各中学校にサッカー部ができ、10年越しの署名、要望活動を行い、ようやく平成7年に小野南中学校にサッカー部が創設され、市内4校にサッカー部が揃った。中学生を対象とした大会は、総合体育大会及び新人大会の二大会が中心で、協会としても大会機会を増やすべく、昭和52年から「市民サッカー大会中学生の部」をはじめ、(株)神戸屋スポーツ（現コーペヤ(株)）、(株)マツヤスポーツの協力を得て、昭和60年に「小野三木（神戸屋杯）サッカーフェスティバル」、「理事長杯（マツヤ杯）サッカー大会」を開催することとなった。現在は、イルソーレ小野のクラブチームが加わり、市内に5チームが存在し、他地域からの参加を得た大会を開催している。

(4) 2種（高校、大学）大会等の状況

小野市には大学チームはなく、サッカー部としては伝統ある小野高校、小野工業高校にサッカー部は古くから存在する。小野高校サッカー部については、昭和59年に全国総合体育大会兵庫県大会に初優勝し、初めて全国大会に出場した経験があり、また、県新人大会では二度の優勝を果たしている。また、小野工業高校については、全盛期は昭和42年前後とされ、同年国民体育大会兵庫県予選では惜しくも決勝で敗れ、全国大会の出場を逃しているが、同じくサッカー活動では歴史を有するチームである。協会としては全国大会出場に際し、資金援助などの活動を行ってきたが、特に協会としての主催大会等を行っていない。

(5) 1種（社会人）大会等の状況

本協会創立時には、社会人チームの発足、大会開催等を行ってきたが、北播サッカー協会の創設と共に、社会人リーグが中心となり、天皇杯予選など北播協会中心の活動となっている。

市内チームの親睦を図る意味から、平成17年からは「小野市社会人キックエイト選手権大会」（8人制）の実施も行ってきたが、今では「フットサル選手権大会」（5人制）の一般の部が唯一の主催大会となっている。

3. サッカー技術向上、普及活動

(1) ヴィッセル神戸との連携活動

平成17年にヴィッセル神戸サッカースクール責任者の加藤 寛氏（現神戸親和女子大学教授）から申し出があり、小野市において幼児、小学生を対象にした「ヴィッセル神戸サッカースクール小野校」を開講し、現在は毎週火曜日に龍翔ドームで行っている。このつながりで、市内保育所等を対象にした「キッズサッカークリニック」をはじめ、協会の各種事業にヴィッセル神戸の協力を得ている。



キッズサッカークリニック

(2) 小野トレセン活動

日本サッカー協会のトレセン活動の方針を受け、高校（東播）、中学生（北播）、小学生（北播）でその活動が実施されているが、4種（小学生）について、5、6年生を対象に市内チームからの推薦でのセレクションを行い、「小野トレセン」活動を実施してきた。このたびの50周年を記念して、日本サッカー協会の指定を受け、U-11から「モデル地区トレセン」として取り組み強化を図っているところである。

(3) 親子サッカー教室活動

昭和59年に小野市教育委員会の支援を受け、小学生1～3年生（当時スポーツ少年団未加入者）を対象に「親子サッカー教室」を実施。15年間の実施でピーク時には120組の親子が参加し、市内でのサッカー普及に努めた。その後、継続して、「親と子のエンジョイサッカースクール」として年10回の開催を行っている。

(4) 100円サッカー教室活動

河合運動広場のナイター設置に伴い、夜間のグラウンド活用として平成12年から、練習に物足りない小中学生を対象に誰でもが参加できる「100円サッカー教室」を毎週木曜日午後7時30分から開講している。参加者は今では小野市に限らず、隣接する加西市、加東市等からも来られている。



100円サッカー

(5) キッズサッカーフェスティバル等活動

U-6を対象にした「キッズサッカーフェスティバル」は重点活動として北播磨サッカー協会でも実施されており、小野協会としても積極的に協力を行っている。また、中町町内会からの要請を受け、協会からキッズリーダーを派遣して平成22年から「中町キッズサッカー教室」(年20回程度)を実施し、楽しく運動に親しむキッズ育成に努めているところである。

4. その他活動

スポーツ団体として、活動を積極的に行う場合、どうしても場所(競技場)が必要とされる。小野市では野球場、陸上競技場、ソフトボール場、グランドゴルフ場、バレー、バスケット、卓球等の体育館等の整備はされるが、なかなかサッカーの競技大会を正式に行う施設がない。そこで、加古川上流浄化センターの整備に合わせ、平成6年に当時の依藤県会議員に要望し、やえざくらまつりへの協力を行い、平成14年には県市へサッカー専用グラウンドの整備の要望書を提出し、平成24年によく「加古川上流浄化センター芝生広場」(多目的広場)として整備された。

小野市サッカー協会としての学校を除く市内施設の主な利用現況

- 大池総合公園陸上競技場：小野市フットサル選手権大会(大会の広域化を図るため芝生公園移転を検討中)
- 河合運動広場：100円サッカー教室、イルソーレ小野練習、サッカーフェスティバル等
- 下東条コミセングラウンド：小野トレセン活動、各種交流大会
- 八ヶ池公園龍翔ドーム：ヴィッセル神戸サッカースクール、キッズサッカークリニック
- ※ひまわり公園芝生広場：親と子のエンジョイサッカースクール
- ※加古川上流浄化センター芝生広場：ひまわり少年サッカー大会、所属チーム練習・交流試合
- ナイター照明があるグラウンド ※正式に一般コートが取れるグラウンド



八ヶ池公園龍翔ドーム

主な大会の開催場所は、みきぼうパークひょうご球場(三木市)、北播衛生グラウンド(加東市)となっている。

■50年の歩みのなかでご支援、ご協力をいただいた団体、企業等

兵庫県、小野市、小野市教育委員会、小野市体育協会、日本サッカー協会、兵庫県サッカー協会、北播磨サッカー協会、神戸フットボールクラブ、ヴィッセル神戸・(株)クリムゾンフットボールクラブ、小野加東ロータリークラブ、小野ライオンズクラブ、小野加東青年会議所、J A兵庫みらい、読売新聞社、読売新聞小野販売所、神戸新聞社、多鹿治三郎商店、(有)小川プロパン、井上ガラス、(株)マツヤスポーツ、文具事務かしわら、おもちゃのタナカ、(株)コーベヤ、大村ラーメン、殿崎自動車工業所、(株)エアコンサービス、金本商会、たなくら石油、木村自動車、大忠建設(株)、小野キング、(株)三興、パブ オックス、藤井酒類食品店、グリーングラス、(有)マルジン、オートボックス、新和建設、共進牛乳小野販売所、(株)神菱、天津風、(株)吉本宝文堂、マツオ設備、コバヤシ設備、シバモトカップ、パーラーセンター小野、宮永建築設計事務所、魚司、ペリカン育ヶ丘、尾花石油(株)、とみさん、ローソン敷地店、山口金属(株)、(株)ニシオコーポレーション、(株)関西水栓、焼鳥 山波、一心産業(株)、(有)関西商業美術広告社、やきとり誠友、松尾企画室建築設計事務所、石田事務所、小野自動車販売(株)、文具創庫、(株)モルテン、スナックあかり、岡田整形外科、播州物産(株)、(株)岡田金属工業所、ゼット販売(株)、(株)富田電機、(株)田中菊蔵商店、依藤診療所、マルフジ工芸社、(株)たくみ、トミタ自動車、酒処はしご、小林製材所、きよたにや、焼肉ハウス吉兆、お好み焼き あっちゃん、共進牧場、鳥ちゅう、小野石油、田中縫工所、リサイクルセンター諏訪商会、ユニスガ印刷(株)、東和産業(株)、(株)YKKK、ペットサロンどうぶつえん、アイエム利工、長谷川製作所、トクセン工業(株)、加東建設(株)、大阪ダイヤモンド精密(株)、(有)住器ヨシダ、大部音楽教室、(株)イオロイ、ポニーテール、リカー&ギフト リック、ドライブインパニー、焼肉次男坊、井岡建築、Marei Claire、寿司なりこま、小野工業(株)、(株)横山商店、松永紙器印刷(株)、日章印刷所、富嶋建設、(株)藤本製作所、松田金属、藤忠呉服店、(有)セイブ電工社、小林タタミ商店、(株)中嶋測量、ふじわらストア、パチンコスカイラーク、レストランサンライズ、板井建設(株)、(株)小林事務機、(株)関西水栓、(株)神戸マツダモーターズ小野営業所、(株)三元、多鹿オートサービス、神戸東陶販売(株)、兵庫県信用組合、神戸電鉄(株)、(株)フジタ精米人、味処松義、とみた産婦人科、稲垣建材産業(株)、山陽利器(株)、F Cドリームズ、堀井造園土木、西鉄旅行(株)神戸支店、田中建築設計事務所、ミルキー薬局、自由民主党兵庫県第四選挙区支部、K.Kアット、(株)ウエダ製作所、(株)マルフジ工芸社、中島モーターズ、エイム工業、(株)小野観光バス、真嶋機工(株)、(株)ダイイチ、久後モーターズ、(株)やさしい手三木、井上石油タイヤ(株)、(株)住本製作所、バリアフリー、高田建築、吉村動物病院、焼鳥バーぐるぐる、松原ガス設備機器、天麩羅・割烹ひろの、S B D事業領域経営研究所、F Cギラソル、アンジェラ、かぎたに歯科医院、花きゃべつ、(有)晴峰、(株)小田、(株)アミモト建装、福井産業(株)、三浦工業(株)、篠原病院、スナック山治、東洋冷熱工業(株)、(株)フジヤ號・ステフォレ、一期一会、(株)ヤスヒラ、リアンズグループ、シルバーランド、(株)ラックス、いいじま動物病院、炭火焼肉いっきゅう、ロッテリア小野オン店、栄光会小野病院、ほっともっと小野王子店、レザーソー工業(株)、藤尾印刷所

(順不同：支援をいただいた時の企業名もあります)

小野市サッカー協会 50年の歩み

- 1965年(昭和40年) 小野市サッカー協会が創立される。
初代会長に依藤邦司氏(依藤小児科医院院長)、理事長に田中精一氏が就任。
主な活動は、社会人チーム「小野クラブ」創設による交流、活動を行う。
- 1967年(昭和42年) 市内中学校で初めて小野中学校にサッカー部が創設される。
それまでは、他の運動部で臨時的にチームを構成し、河合中学校が東播大会に出場していた。
- 1970年(昭和45年) 二代目会長に松井一郎氏(市議会議員)が就任。
- 1972年(昭和47年) 小野クラブが「小野ダックス」(小野工業高卒業生)へと分離。
試合は神戸市K R A C、神戸フットボールクラブ等の交流試合が主な活動とされる。
小野市に「スポーツ少年団」が設立され、小野、小野東、来住、河合地区にサッカー部ができ、少年サッカーの活動が本格的に市内で開始される。後に大部、中番、協会からの指導者派遣で市場にとスポーツ少年団サッカー部の活動が広がる。
大池総合公園に野球場が整備され、翌年に陸上競技場、バレー・テニスコート等が完成。
北播サッカー協会(4市8町〔3郡])が設立される。
- 1974年(昭和49年) 昭和48年に日本サッカー協会で紹介されたミニサッカー規則を取り入れ、市教育委員会主催・本協会主管で市民ミニサッカー大会が開催される。
- 1975年(昭和50年) 陸上競技場のサッカー夜間利用を目的に、関係者の寄付を募り、照明設備を設置。(工事費約70万円)夜間活用利用を図る。
- 1976年(昭和51年) 三代目会長に大野文夫氏(市議会議員)、理事長に石田健郎氏が就任。
- 1977年(昭和52年) 市民を対象に大池総合公園陸上競技場にて読売新聞社の後援を得て「第1回小野市ミニサッカー大会」を開催。参加チーム46チーム(小学生男子21チーム、中学生男子12チーム、一般男子13チーム)
市内中学生サッカー部を対象に「第1回市民サッカー大会中学生の部」を開催。
- 1979年(昭和54年) 指導者研修会にヤンマーディーゼルのジョリー上田、大畑選手、三田コーチ、玉田マネージャーを招き実技指導を受ける。
- 1980年(昭和55年) 小野市スポーツ賞表彰式の際の研修会にヤンマーディーゼル監督の釜本邦茂氏の実技指導と講演が開かれる。
市内中学校で唯一サッカー部がない小野南中学校にサッカー部創部に対する要望書を提出。
- 1982年(昭和57年) 小野ロータリークラブの支援により、小野市、加東市の少年サッカーチームを対象に「第1回小野ロータリークラブ杯争奪新春少年サッカー大会」を開催。
河合運動広場が陸上競技場、ソフトボール、バレー・テニスコート等で整備され完成。
- 1984年(昭和59年) 市教育委員会による支援を受け、「親子サッカー教室」(年間10回:小学1年生~3年生を対象)を開催。15年間実施(多い年で年間20回、親子120組が参加)
小野高校サッカー部が兵庫県高校総合体育大会サッカー大会で優勝し、全国大会(秋田県)に出場。協会として応援金を募り40万円を贈呈。
- 1985年(昭和60年) 現コーペヤ(株)の協力を得て、中学生を対象として「第1回小野三木(神戸屋杯)サッカーフェスティバル」を開催。両市以外からも招待して大会を行う。
(株)マツヤスポーツの協力を得て、中学生を対象に「第1回理事長杯(マツヤ杯)サッカー大会」を開催。市外からも招待して大会を行う。
藤井幸雄副会長の提案で、市内保育所を対象にサッカー大会を開催した。
- 1986年(昭和61年) 四代目会長に坂口高氏(小野市民病院院長)が就任。
協会創立20周年を記念して、ヤンマーディーゼルの堀井明美コーチ兼任選手、楚輪博(主将)、坪田和美(副主将)選手を招聘し、指導者講習会を開催した。同時に歴代会長に感謝状を贈呈。
- 1987年(昭和62年) 小野市スポーツ少年団主催の「第1回小野市ライオンズクラブ杯争奪少年サッカー大会」を開催。
- 1988年(昭和63年) 理事長石田健郎氏が副会長に、理事長に井上満雄氏が就任。
協会歌「小野市のイレブン」(作詞:井上満雄、作曲:不詳)を制定。
- 1991年(平成3年) 小野市スポーツ少年団主催の「第1回農協杯少年サッカー大会」(市内大会)を開催。現在は農協合併により、小野市、加西市の少年サッカーチームを対象に「J A兵庫みらい杯少年サッカー大会」として継続開催している。
- 1994年(平成6年) 依藤とみ子地元県議会議員に加古川上流浄化センター処理場上部へのサッカー場設置(人工芝のグラウンド)を要望。
- 1995年(平成7年) (株)マツヤスポーツの協力により市内少年サッカーチームを対象に「第1回マツヤスポーツ杯少年サッカー大会」を開催。
小野南中学校にサッカー部が創設され、すべての小中学校(一部生徒数の関係で少年チームは合同)でサッカー部ができる。
- 1996年(平成8年) 五代目会長に石田健郎氏(司法・行政書士)が就任。
第20回記念「小野市ミニサッカー選手権大会」を開催される。
- 1997年(平成9年) 理事長井上満雄氏が副会長に、理事長に多鹿善文氏が就任。
- 1999年(平成11年) 理事長多鹿善文氏が副会長に、理事長に藤井玉夫氏が就任。
- 2000年(平成12年) 当初大池総合公園で実施していたサッカー教室を河合運動広場の照明灯の設置で場所を移し、小林勉副理事長が担当し、毎週木曜日の夜間に「100円サッカー教室」として新たに開講。
- 2001年(平成13年) フットサルの普及から第25回に「小野市ミニサッカー大会」を「小野市フットサル選手権大会」に名称を改め、開催。
- 2002年(平成14年) 「親子サッカー教室」に引き続き、井上満雄副会長が担当し、「親子のエンジョイサッカースクール」(年10回)を開講。
小野市に初めて、3種(中学生)のクラブチーム「イルソーレ小野」が創設される。
ひまわりの丘公園が竣工し、芝生広場でヴィッセル神戸和多田充寿選手を招き、指導、ゲームを行う。
- 2005年(平成17年) ヴィッセル神戸による少年を対象にサッカースクール小野校が開校。これに合わせ、市内幼稚園、保育所を対象に「ヴィッセル神戸キッズサッカークリニック」を実施。
加古川上流浄化センターへのサッカー場の設置について、県、市、地元黍田町等へ会長名でサッカー場の要望書提出。
市内社会人チームを対象に「第1回小野市社会人キックエイト選手権大会」を開催。
- 2006年(平成18年) 龍翔ドーム(フットサル・ゲートボール場)が完成。
- 2008年(平成20年) 龍翔ドームを活用して「第1回シニアフットサル選手権大会」を開催。
- 2009年(平成21年) 佐藤光宏氏が副会長に就任。
- 2010年(平成22年) 中町自治会の要請で、藤井玉夫理事長が担当し、幼児を対象にした「中町キッズサッカー教室」(月2回)を開講。
- 2012年(平成24年) 加古川上流浄化センター「芝生公園」(天然芝)が竣工、サッカー競技で竣工を祝う。
- 2014年(平成26年) 理事長藤井玉夫氏が副会長兼事務局長に、理事長に小林勉氏が就任。
- 2015年(平成27年) 協会創立50周年を迎え、京都サンガ 池上正氏による記念講演会、記念大会等を行う。